

短期大学の卒業生は在学時の 教育をどう評価しているか ー卒業後の経過年数別の傾向ー

○宮里 翔大・○堺 完・山崎 慎一・黄 海玉

(桜美林大学大学院, 大分大学, 桜美林大学, 一般財団法人大学・短期
大学基準協会)

部会20 大学運営

2021年6月5日@関西大学 (オンライン)

学修成果等エビデンスをもとにした 教育改善の必要性

●グランドデザイン答申（2018）、教学マネジメント 指針（2020）

- ① 「三つの方針」に基づく体系的で組織的な大学教育を展開し、その成果を学位を与える課程（学位プログラム）共通の考え方や尺度に則って点検・評価を行うことで、不断の改善に取り組むこと
- ② 学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用すること

= 学修者本位の教育への転換に必要な情報収集と改善
（学修成果の可視化と教育の質保証取り組み）

学修成果・教育成果を表す「卒業生からの評価」

- 教学マネジメント指針内、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を示すエビデンスの1つとして「卒業生からの評価」が例示
- 情報の収集方法→卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

【先行研究】

⇒吉本（2007）：卒業生調査で期待される効果

- ①卒業生は短期大学をどう評価している把握
- ②卒業後のキャリア通じて、短大教育の効果を相対的に明らかにする

=各大学の自己点検・評価及びその後の改善活動において卒業生調査の有効性が高いことを指摘

短期大学における卒業生への意見聴取やアンケート等調査の実態

• 山崎（2018）

→ホームページに公開済**253**短期大学の自己点検・自己評価報告書を調査した結果、**117**の短大が卒業生調査の実施あり。ただ多くで返答（回答）数が少ないことや、単年でしか調査が行われていない。報告書等の記述を見る限り、十分な回答がないことで教育改善等の活用まで至っていない現状。

• 宮里（2019）

→短期大学基準協会会員校に対して卒業生調査実施に関するアンケート。**120**校回答中**90**校が実施あり。実施頻度（スパン）は、毎年実施**43**校、2年に1度は**4**校、3～5年に1度は**9**校、期間不定**37**校、半数近くの短期大学が卒業生調査を毎年実施

本研究の目的と発表の位置づけ

- ◎自己点検・自己評価に活用できる全国規模の共通設問による卒業生調査の開発とフィードバック方法の検討（参加短大の評価改善に役立てもらう）
- ① 全国比較や年度別比較、専門分野比較といったベンチマークできるようにすること
- ② 在学生調査との比較を可能にして、在学時－卒業後の状況が継続的に把握できるようにすること

今回の発表

短期大学の卒業生が卒業からの**年数**によって、短期大学教育に対する評価がどのように変化するのか

短期大学卒業生調査実施概要

【調査目的】

- ・短期大学で教育を受けた卒業生に対して、短期大学の満足度や学習成果、短期大学への要望などを尋ね、教育成果の可視化に関する情報を得る

【調査対象】

- ・大学・短期大学基準協会会員校全体に参加募集をかけ、調査を希望した**45**短期大学。
- ・参加校の卒業生で、①調査実施時点で、卒業後**1**年目、卒業後**3**年目、卒業後**5**年目（**2019,2017,2015**年度末卒）②卒業時点で就職先や進路先が決まっていた者

【調査方法】 web調査

- ・各校の卒業生に調査依頼文書を送付、文書に記載の**QR**コードを読み取って調査専用のウェブページにアクセスしてもらって回答

【実施時期】

- ・**2020**年**7**月末～**9**月中旬の約**1**か月間

設問内容

Q.	短大／回答者ID	Q.	現在のキャリア
Q.	性別	Q.	現在の就職先
Q.	最終学歴	Q.	現在の雇用形態
Q.	短大に対する総合評価	Q.	在学時に取得した免許資格の活用
Q.	短大教育の学修成果	Q.	卒業後の短大との関わり
Q.	短大推奨度	Q.	短大への卒業後の支援・要望
Q.	卒業直後のキャリア	Q.	短大で学んでよかったこと／学びたかったこと*
Q.	卒業直業の就職先	Q.	短期大学でもっと学びたかったこと／改善してほしいこと*
Q.	卒業直業の雇用形態	Q.	短大の後輩へのアドバイス*
Q.	卒業直業の勤続年数		* 自由記述

※調査集計結果については大学・短期大学基準協会ホームページ>「組織概要」>「刊行物書籍・資料・報告書等」に掲載しているのでそちらを参照

(https://www.jaca.or.jp/jaca_cms/wp-content/uploads/2021/03/chosakenkyu_tandai_sotugyoseichosa_2020_kekkahokoku.pdf)

回答状況

- 参加短期大学**45校**（会員校**268校**中）
- 調査依頼数**9560名**（＋住所不明返送**290**）
- 有効回答数**1948名**（回答率**20.3%**）

（内訳）

性別：男性**120名**、女性**1821名**、その他（不明）**7名**

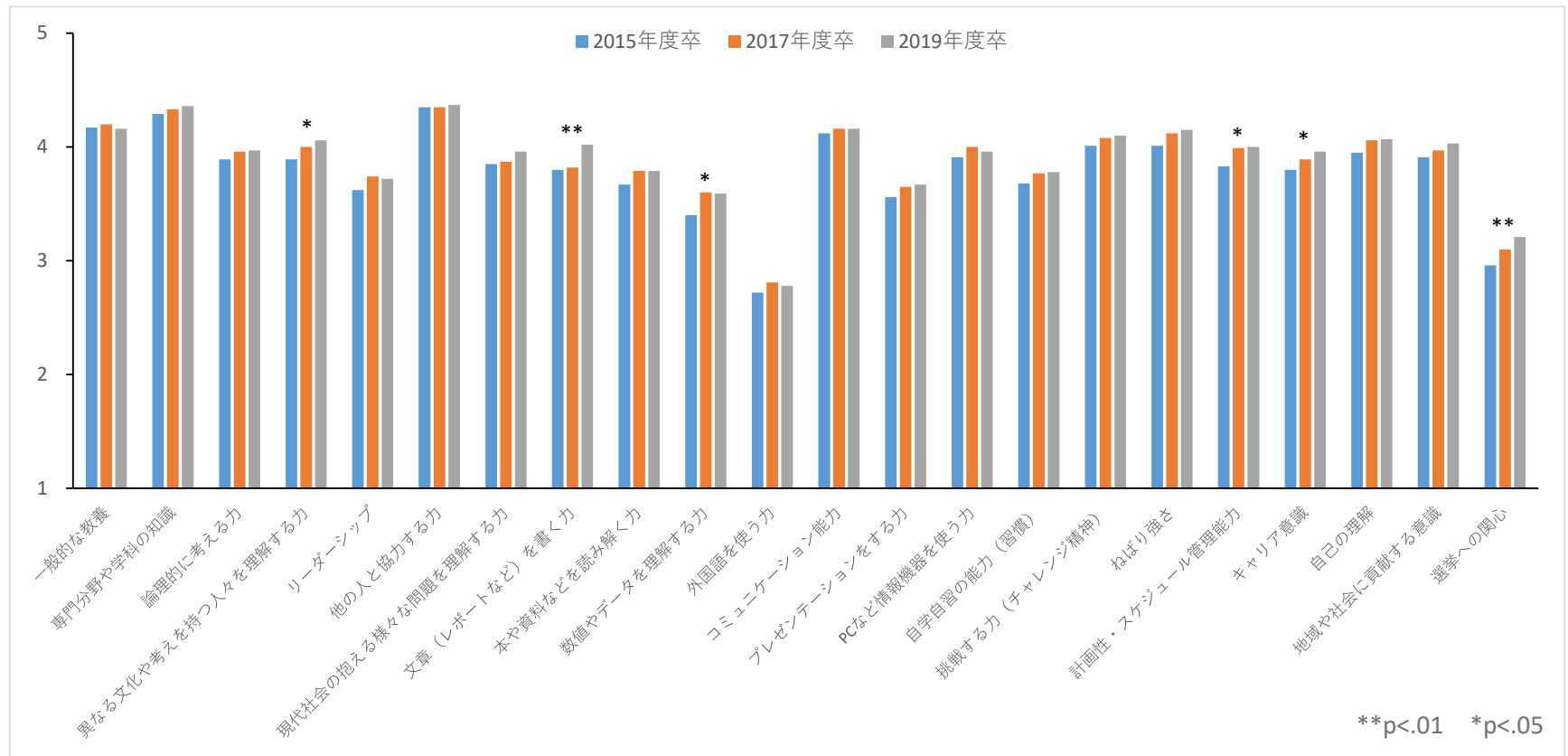
卒後年数：2019年度卒**1169名**、2017年度卒**462名**、2015年度卒**290名**

その他（不明）**20名**

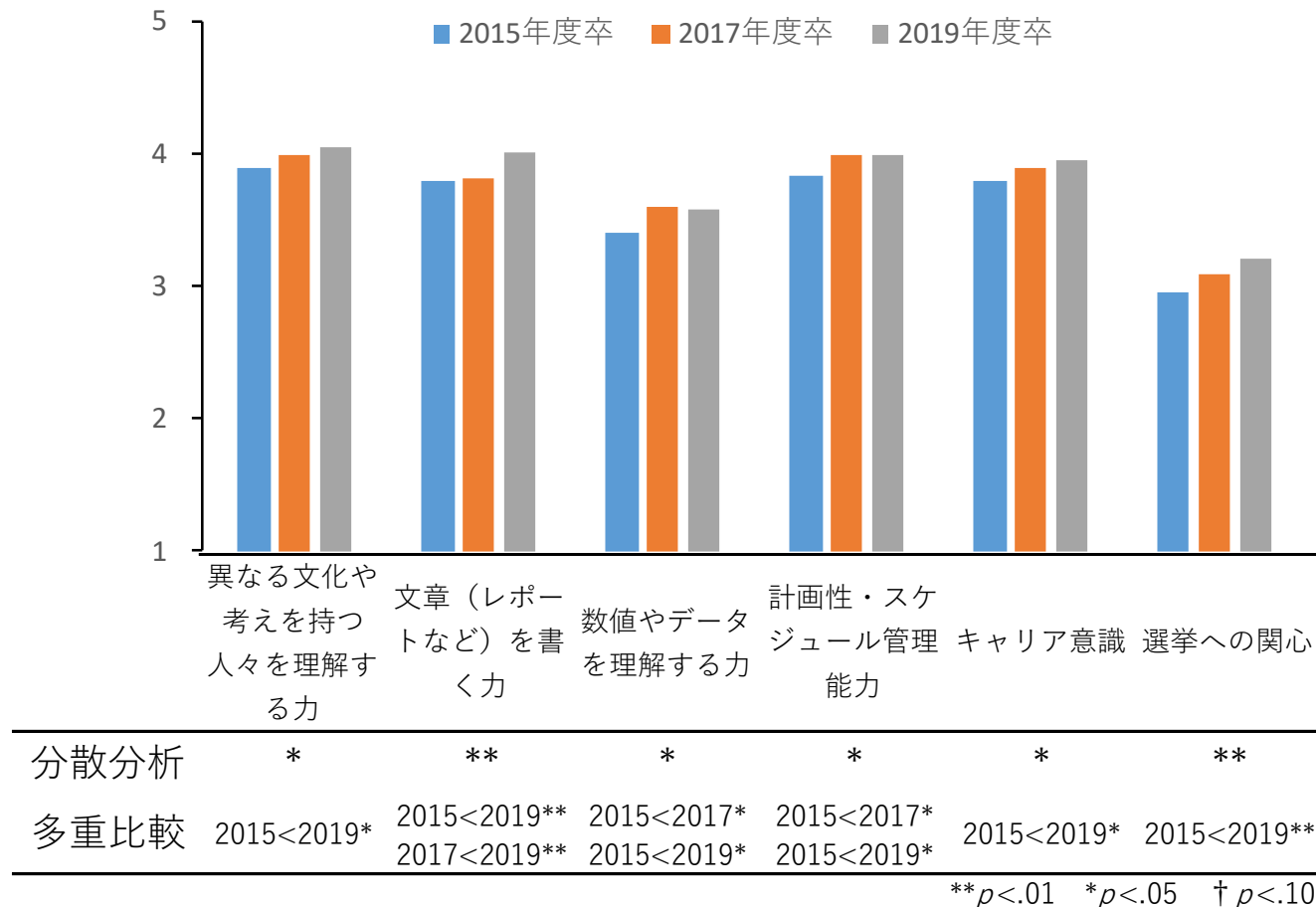
- 回答完答率**89%**（回答アクセス途中離脱**11%**）
 - 平均回答時間 **9分台**
- ⇒ 2200名程度はアンケートフォームにアクセスして、
そのうち9割は最後まで回答

結果（短期大学教育の役立ち度）

- 短期大学で学んだことが「役に立った（5）」～「役に立たなかった（1）」の五件法で回答。
卒後1年（2019年度卒）～卒後5年（2015年度卒）を比較するため、分散分析を実施。



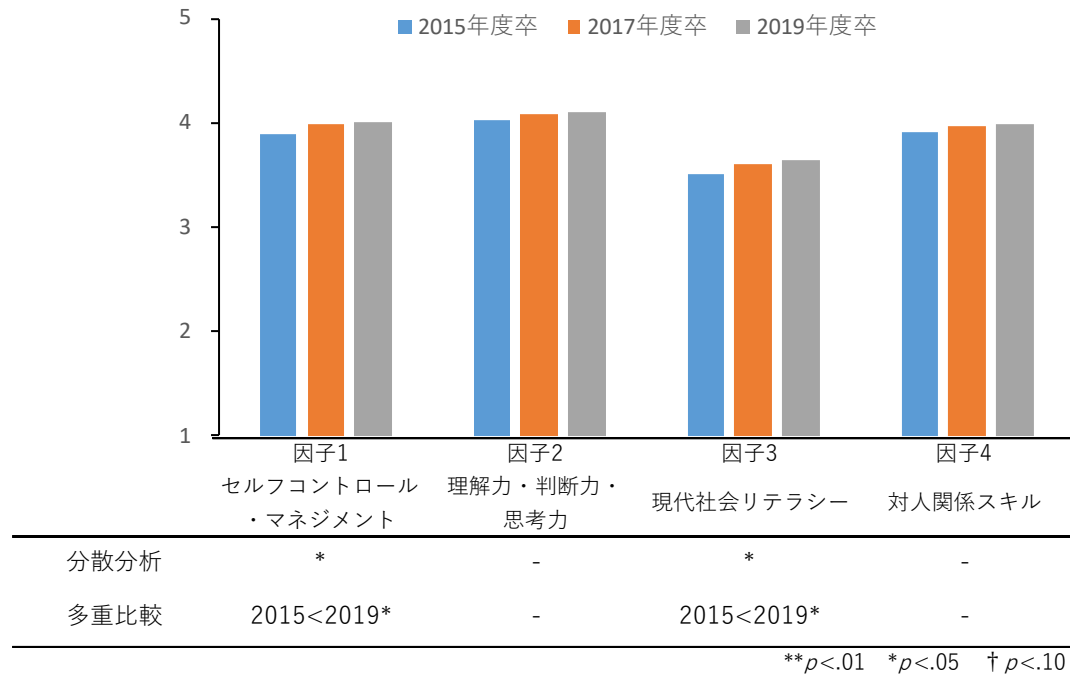
- 22項目中6項目で卒業からの年数が経過しているほど、得点が低い結果に。また、多重比較の結果、卒後1年目と5年目との間に有意な差がみられた。



- 短期大学教育の役立ちに関する22項目を因子分析（最尤法・プロマックス回転）。
- ⇒「セルフコントロール・マネジメント」「理解力・判断力・思考力」「現代社会リテラシー」「対人関係スキル」の4因子が抽出。

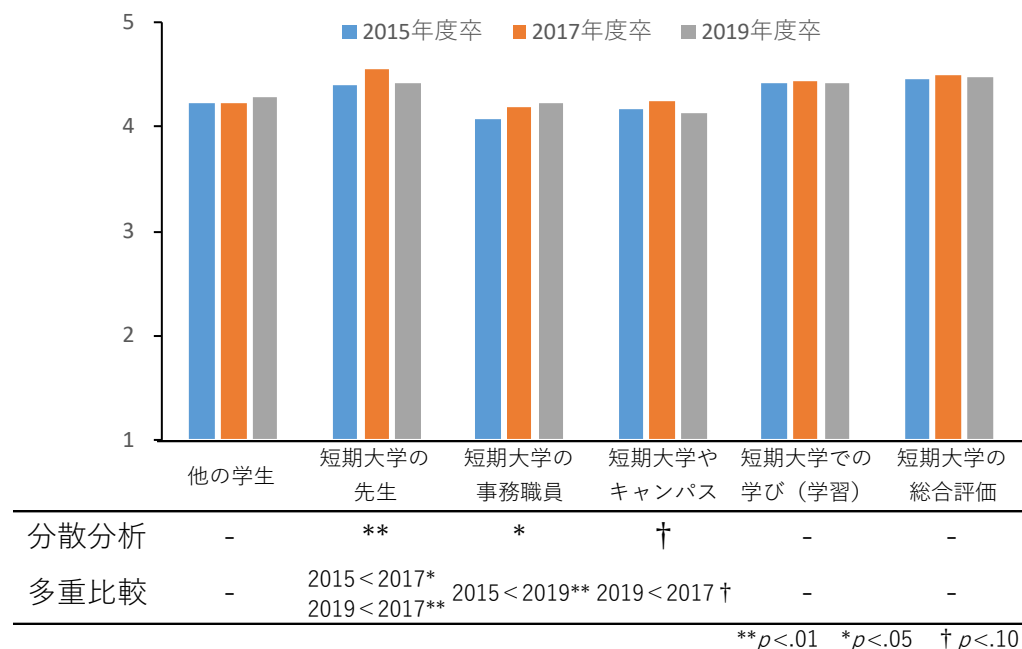
	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1 セルフコントロール・マネジメント（$\alpha=.90$）				
計画性・スケジュール管理能力	.78	-.11	.09	.00
自己の理解	.76	.16	-.09	-.05
ねばり強さ	.71	.05	-.05	.10
挑戦する力(チャレンジ精神)	.68	-.03	.01	.20
キャリア意識	.65	-.02	.08	.08
自学自習の能力(習慣)	.61	-.07	.34	-.11
地域や社会に貢献する意識	.57	.23	-.01	.01
因子2 理解力・判断力・思考力（$\alpha=.83$）				
論理的に考える力	-.03	.73	.11	.04
異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	.06	.71	.00	-.03
一般的な教養	-.02	.63	-.02	.09
現代社会の抱える様々な問題を理解する力	.15	.51	.17	.01
専門分野や学科の知識	-.01	.48	.04	.14
因子3 現代社会リテラシー（$\alpha=.83$）				
本や資料などを読み解く力	-.04	.23	.74	-.08
文章(レポートなど)を書く力	-.01	.06	.67	.08
数値やデータを理解する力	.07	.14	.66	-.09
プレゼンテーションをする力	.00	-.10	.47	.46
PCなど情報機器を使う力	.13	-.17	.46	.14
外国語を使う力	-.02	.06	.37	.22
因子4 対人関係スキル（$\alpha=.82$）				
コミュニケーション能力	.25	.04	-.02	.56
リーダーシップ	.05	.18	.08	.55
他の人と協力する力	.18	.25	-.08	.45
プレゼンテーションをする力(再掲)	.00	-.10	.47	.46

- 4因子の因子得点を算出し、卒業からの経過年数による得点の差を分散分析にて検討。
⇒2因子に有意な差がみられ、卒後1年目の方が、卒後5年目に比べて優位に得点が高い結果に。



結果（短期大学教育の総合評価）

- 短期大学教育に対する総合評価がについて「肯定的（5）」～「否定的（1）」の5件法で回答。
卒後1年（2019年度卒）～卒後5年（2015年度卒）を比較するため、分散分析を実施。



- 3項目で有意な差がみられたものの、項目によって多重比較の結果はやや異なっている。

考察

- 短期大学教育に対する評価は、概ね変化していない？
ただし、調査項目によっては、卒業からの年数が経過するにつれて、評価が低下している。
⇒卒後すぐに役立つ知識（≡スキル）は評価が低下するが、普遍的な能力については低下しにくい可能性。
⇒卒業生が感じている短期大学の教育効果は想定よりも持続時間が長い？
- 短期大学教育の満足度についてはやや異なる傾向であり、平均点が非常に高い。
⇒「短期大学での学び（学習）」と「短期大学の総合評価」は有意差**なし**。
⇒短期大学における教育内容に対する評価は大きく変動していない。

問題点と今後の検討課題

- 回収率の低さ
回収率が低いことで、回答者に偏りが生じている可能性がある。
⇒回収率が高い短期大学へインタビュー調査を行い、短期大学全体での回収率向上に努める。
- 在学生調査（短期大学生調査）との比較
在学時の評価とどのように変化しているのか検討。
⇒卒業後のニーズに合わせた教育を行うための一助に。

参考文献

- 中央教育審議会, 2018, 『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』文部科学省.
- 中央教育審議会大学分科会, 2020, 『教学マネジメント指針』文部科学省.
- 吉本圭一, 2007, 「卒業生を通じた『教育の成果』の点検・評価方法の研究」『大学評価・学位研究』5: 77-107.
- 山崎慎一, 2018, 「自己点検・評価報告書から見た短期大学における卒業後評価の現状と課題」, 日本高等教育学会第21回大会発表資料.
- 宮里翔大・堺 完・黄 海玉・山崎 慎一, 2020, 「短期大学における卒業生調査の実施状況とその課題ー短期大学に対する質的・量的調査からー」, 『大学アドミニストレーション研究 (10)』44-58.